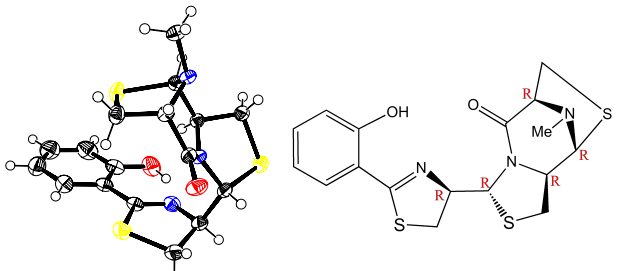
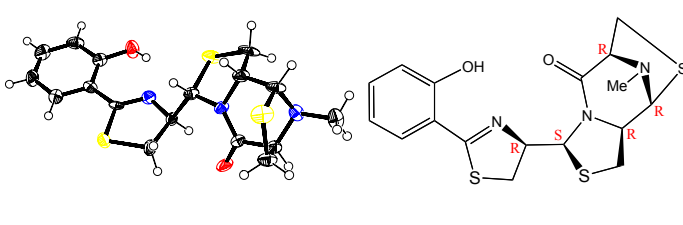
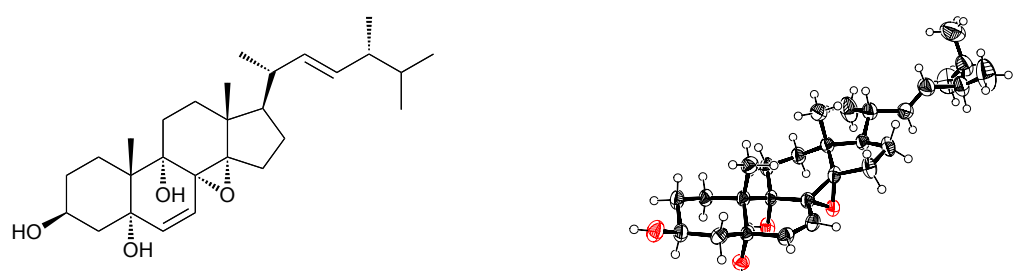


提出日：平成 29 年 5 月 8 日

平成 28 年度 大阪大学蛋白質研究所 拠点事業

(2) 研究成果の概要

課題名	ケンブリッジ結晶学データベースを用いた、生理活性物質、特に C-末端アミド化ペプチドの構造と機能に関する研究	
研究代表者	氏名	尹 康子
	所属機関名・部局名	大阪薬科大学 薬品物理化学研究室
	職名	准教授
事業名 (該当の事業名の右欄に○)	○	共同研究員
		超高磁場NMR 共同利用研究課題
		クライオ電子顕微鏡共同利用研究課題
		客員フェロー
蛋白研受入担当教員名	中村 春木教授	
<p>1) <i>Brevibacillus</i> 属細菌より発見された新規化合物 ulbactin F と ulbactin G は、癌細胞の基底膜浸潤阻害活性 ($IC_{50}=1.7\mu\text{g/ml}$)と、遊走阻害活性 ($IC_{50}=0.84\mu\text{g/ml}$)を示した。これらの平面構造を NMR により、立体構造を X 線結晶構造解析により決定したところ、下記に示すように、両者はジアステレオマーであった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>ulbactin F (CDCC accession number 1450142)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>ulbactin G (CDCC accession number 1450143)</p>  </div> </div> <p>2) エリンギ (<i>Pleurotus eryngii</i>) はヒラタケ科 (Pleurotaceae) ヒラタケ属に属する食用キノコである。これまでにエリンギ子実体成分について、B 環にかご型構造を有するステロイド eringiaceal A の構造と一酸化窒素 (NO) 産生抑制活性を報告している。さらなる新規活性成分を見出すことを目的として、エリンギ子実体メタノールエキスの成分探索を行ったところ、新規なエルゴステイン型ステロイド 6 個を単離生成した。さらに、一酸化窒素 (NO) 産生抑制活性を示す下記の新規化合物の絶対構造を、X 線結晶構造解析により決定した。</p> <div style="text-align: center;"> <p>(22E)-8,14-epoxyergosta-6,22-diene-3b,5a,9a-triol (CDCC accession number 1476620)</p>  </div>		

※本様式は、“拠点事業成果報告”として、拠点ホームページにて公開させていただく予定です。

※必ず A4 用紙 1 枚におさめて下さい。

※提出期限：平成 29 年 5 月 19 日 (金)

※提出の際は PDF 変換して下さい。

※提出先：大阪大学蛋白質研究所拠点プロジェクト班 E-mail: tanpakuken-kyoten@office.osaka-u.ac.jp